

令和7年度 第4回沖縄県がん診療連携協議会 ベンチマーク部会 議事要旨

開催日時：令和8年3月2日（月）10：00～11：00

場 所：Zoom を利用した Web 会議

出 席：5名

井岡亜希子（まるレディースクリニック院長）、埴岡健一（国際医療福祉大学大学院医療福祉学研究科教授）、東尚弘（東京大学大学院公衆衛生学分野教授）、伊佐奈々（琉球大学病院がんセンター診療情報管理士）、増田昌人（琉球大学病院がんセンター長）

欠 席：3名

伊藤ゆり（大阪医科薬科大学医療統計学研究室特別職務担当教員教授）、平田哲生（琉球大学病院診療情報管理センター長）、山里紘美（沖縄県保健医療介護部健康長寿課主任技師）

陪 席：1名

西佐和子（琉球大学病院がんセンター事務）

【報告事項】

1. 令和7年度 第3回ベンチマーク部会議事要旨について

増田部会長より、資料1に基づき、ベンチマーク部会の議事要旨について説明があった。

2. その他

特になし

【協議事項】

1. 「2025年度沖縄県医療者調査」について

増田部会長より、資料2に基づき、現在実施している「2025年度沖縄県医療者調査」について報告があった。回答期限を3/13（金）まで延長したとのことだった。

2. 第4次沖縄県がん対策推進計画（連携協議会）中間評価について

増田部会長より、資料3に基づき、第4次沖縄県がん対策推進計画（連携協議会）中間評価について説明があった。先日行われた第4回沖縄県がん診療連携協議会にて、中間評価作業について提案し、原案通り認められたとの報告があった。続いて、個別施策表フォーマット、中間評価用管理フォーマットの紹介があった。

井岡委員より、個別施策は数も多く未把握の部分もあるため、分野アウトカムと中間アウトカムを中心に指標を整理されてはどうかと提案があった。施策によって結果が明確でなくても、良い方向に進んでいることが見えると関係者の士気が上がるので、全体的にそ

の流れを作り出せるといいのではないかとのコメントがあった。

続けて、井岡委員より、生存率が出るのは時間がかかる一方で、死亡率は比較的早く出るため、生存率だけでなく死亡率も同時に見た方がよいのではないか。もし生存率が低く死亡率が高ければそれを改善する方向になっていく。死亡率は都道府県別の順位が出るため、

順位が悪い場合は死亡率減少を重きに置きつつ、生存率や罹患率など他の指標も合わせて検討することが重要だとのことだった。これを受けて埴岡副部長より、分野アウトカムの指標について意見があった。「がんの予防」「がん検診」では分野アウトカムに死亡率が掲載されているが、「医療提供体制」では五年生存率のみで、その後も死亡率の説明がなく、死亡率が再掲されていない。多くの場合、「がんの予防」「がん検診」を割愛して「医療提供体制」から議論を始めるため、死亡率が全く議論されていないのではないかという誤解を生みやすいとのことだった。

東委員より、患者体験調査の2018年調査と2023年調査の数値について質問があり、質問が変更になった場合の経年比較について意見が交わされた。例えば、患者体験調査の『がんやがん治療に伴う身体の苦痛や気持ちのつらさにより、日常生活を送る上で困っていることがない患者の割合』（分野アウトカム指標）においては、2018年調査は「困っていることがない患者の割合」だったが、2023年調査では「困っていることがある患者の割合」に質問が変更になっている。この場合、経年変化をみることはできないため、協議の上、中間評価用管理フォーマットでは省くことになった。

3. その他

特になし。